

9 8

**地域おこし協力隊の町の活性化を図る**

地域の活性化を図るため、留萌市では2013年に地域外の都市住民を受け入れ、3年間農業や漁業などに従事してもらいながら委嘱する「地域おこし協力隊」制度を導入した。活動の中心となったのは、留萌市地域振興部農政係長の海野聡さんで、「地域の農産物を活用した加工食品研究や6次産業化を進めながら、交流人口の増加によって地域活性化に繋げたい」と、都市部の人材の積極的な受け入れを決めた。最初に名乗りを挙げたのが、当時横浜市在住だった門間明さん。昨年6月に単身で移住し、指導農業者の野原守さんの下で稲作をメインとした研修に取り組みつつ、地域の農家や障がい者就労作業所、行政、JAで構成する「るもい農業（人）と（食）」の交流推進協議会に所属。農閑期には留萌の農産物を使った乾燥野菜の商品開発にも携わった。



10

**青空の下でのびのびと働く楽しさを実感**

もともと札幌出身の門間さん。現在は留萌市内に居を構え、家族と暮らしながら毎日8時に野原さんの持つ圃場へと出勤する。移住に関しては、「自分が農業をしたかったのはもちろんですが、子どもを北海道の自然や雪の中で育てたいという思いが強かった。迷いはありませんでした。去年は夏場の作業と秋の収穫にしか携わっていませんが、育苗は今年が初めて。植えたばかりの苗は、朝から夜にかけてはさきりと成長が分かり、その変化も新鮮だ。まさに今が勉強時だと話す門間さんは、「この辺りは、留萌の中でも奥地なので静かです。自然の中でのびのびと作業に取り組みます。何もかも一からですが、やりたかったことなので辛いことはありません。何より、青空の下で働いていることが楽しいですね」と笑顔を見せる。日々楽しく、農業と向き合っている門間さんの3年後に期待したい。

- 8.水稲35ha中、今年は25~26haで米を栽培し、1年で150tの収穫予定。
- 9.厳しさと優しさを持って指導する、農業訓練士の野原守さん。
- 10.野原さんと海野さんは、「3年の間に技術を習得するのはもちろん、人間関係も形成してほしい」と話す。
- 11.市役所農政課・推進事業の1つとして、「ふれあいの家」での切り干し大根づくりをサポート。
- 12.黙々と静かに作業に従事する門間さん。
- 13.「新規就農する時に何を栽培していくか、研修の中で見極めたい」と門間さん。



13



11



12



水産加工品が名産で、特にカズノコを使った商品は多彩。

日本海に面した海沿いの港町・留萌市。南北には暑寒別天売焼尻国定公園が連なり、天気の良い日は利尻・礼文の島影が望める。また、市内には3kmに渡って砂浜が続くゴールデンビーチや、輝く夕陽が眺められる黄金岬海浜公園、市街地を一望できる千望台など、美しい自然を満喫できるスポットが点在している。

その地形から水産資源に恵まれ、特に塩カズノコは国内シェア50%。粒ぞろいので食感も良く、品質にも定評がある。また、温暖な気候と恵まれた自然環境により、道内でも屈指の高品質米が生産され、全国的に高い評価を得ている。さらに近年では、デュラム小麦のような特長を持つ留萌産バスタ小麦「ルロン」も注目を集めるなど、地域ブランド化にも力を入れている。



るもいし  
**留萌市**

00000000  
☎0000-00-0000  
http://www.aaaaaaa

海や山、美しい風景と豊かな自然環境が広がる

**技術を学びながら農業でまちづくり**

海や山が育んだ食材に恵まれた留萌市。近年、後継者不足が深刻化しているこの地で、「地域おこし協力隊」として農業を学ぶ門間明さんに話を聞いた。



2



3



- 1.ハウス6棟で育苗を行う。「育つ様子を見るのが楽しい」と門間さん。
- 2.少し暖かくなった4月下旬。田圃はまだ雪割り中。
- 3.収穫期には、見渡す限り一面、黄金色に輝いている。

食に加えて、その冷涼な気候から、良質な花の産地としても知られる留萌市は、トルコキキョウ生産の北限地とされている。市街地や商業圏に程近い山間部で30年近く花卉農家を営んでいる中原耕治さん夫婦は、約20種類のトルコキキョウを栽培しており、8月下旬から9月にかけて関西や関東に出荷している。

このように食や農業、漁業の魅力が詰まった留萌市だが、現実問題として抱えているのが、担い手の高齢化と後継者不足だ。花卉農家においても、生産者組合のメンバーのほとんどが中原さんと同年代。それが一斉にリタイヤした場合、せっかく開拓した市場が無駄になってしまうと危惧する。中原さんは、「せっかく高い評価を得て期待されているのです

- 4.中原さんの作るトルコキキョウは、国内3本の指に入るとされる高い技術を持つ。5~7大きさや色、形が異なる多彩な種類のトルコキキョウ。直径15cmの巨大輪タイプは華やかで、プライダルにも重宝される。



7



5



4

から、花の産地としてこの技術を継承して、末永く続けていってほしいです。花を育てるには美的感覚が必要ですが、見て覚えて自分のものにしていくってほしいですね」と、次世代への期待を高める。

**留萌市 COLUMN**

**「留萌市地域おこし協力隊」募集中!**

留萌市では、地場の農産物を活用した加工商品研究や農業と福祉の連携による6次産業化を進めながら、交流人口の増加によって留萌全体の元気を取り戻すため、意欲ある都市部の人材を積極的に受け入れ、市民や関係団体などと協力しながら、地域活性化の新たな展開を期待し、「留萌市地域おこし協力隊」を募集します。地域おこし協力隊活動期間終了後に、留萌市内において就労または起業し、「留萌に定住したい」という思いを持った方々の応募をお待ちしています。

☎0164-42-1809 ☎0164-43-8778  
@kikaku@e-rumoi.jp

**●募集概要**

花きや野菜農家での農作業支援を行いながら、農村集落の活性化に向けての都市農村交流活動や、食と農によるまちづくり活動の実践(約1名)

**●業務概要(基本活動)**

①花きや野菜農家での農作業支援を行いながら、農村集落の活性化に向けての都市農村交流活動や、食と農によるまちづくり活動の実践(花きや野菜農家での農作業支援と技術の習得・農村集落の活性化に向けた、都市農村交流、体験事業の企画、実践・花育、食育等の、食農教育に関する活動) ②地域おこし活動 ③生活基盤形成活動

**●募集対象**

①都市地域等(過疎地域以外)から留萌市に住民票を移動し移住できる方。 ②普通自動車運転免許(マニュアル)を取得している方。 ③Eメール等、パソコンを日常的に利用している方。 ④心身ともに健康で、誠実に職務ができる方。 ⑤地域住民や各医大、NPOなどと協力しながら、地域を元気にするために精力的に活動できる方。

**●勤務地 留萌市内**

●勤務時間等 週4日間、29時間

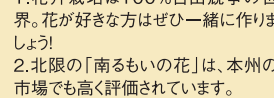
※勤務時間等については、協力隊員との協議の上、季節や業務の内容による変動する場合があります。

**●雇用形態・期間等**

①留萌市の非常勤職員として、留萌市長が委嘱します。  
②委嘱期間は、採用の日から平成27年3月31日までとしますが、その後1年を超えない範囲において、留萌市長が委嘱更新の判断をします。なお、最長期間は、委嘱の日から3年までとします。



1



2

1.花卉栽培は100%自由競争の世界。花が好きの方はぜひ一緒に作りましょう!  
2.北限の「南るもいの花」は、本州の市場でも高く評価されています。